

四則演算の記号

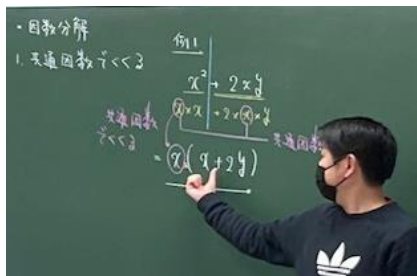
「+」「-」「×」「÷」お馴染みの四則演算の記号ですが、4月24日の授業を巡ると、複数の教室でこの記号を見ることができました。

1組の教室では、3年生が理科で原子の構造を学んでいました。見えない世界を見ようとする単元です。原子とは、私たちの身の回りにあるものを構成している物質です。身の回りを細かくしていくと最終的に原子にいきつきます。



原子は、原子核の周りをマイナスの電気をもった電子がまわっています。原子核は、プラスの電気をもった陽子と電気をもたない中性子から成ります。電子黒板や黒板を使って原子を模式的に表すと右上のような図になります。陽子は⊕、電子は⊖で表していました。

3年A組は、数学です。もちろん、四則の演算記号が最も黒板に登場します。今日は因数分解の授業でした。+や-、×を発見することができましたが



$= x(x+2y)$ には×を発見できません。そうです。この式は丁寧に書くと $= x \times (x+2y)$ となります。×が省略されていますよね。ある意味、×の記号は見えない世界です。生徒たちは見えない世界を操りながら、見えない解答を導き出すために、式を変形していきました。

1年C組英語では、演算の記号を発見できないであろうと覗きみると、驚愕!黒板の右端を観ると、

「Bingo 2 × 2」

まさか、英語で「×」を見出すとは。今日の授業ではBingoの得点が2倍になるということでした。福田先生が

「Are you ready?」

と声をかけると生徒たちは明るくハリのある声で、「Yes!!」と。盛り上がりは最高潮!笑顔のある授業でした。



3年B組は体育、体育館にてビーチフラッグです。フラッグの代わりにミニコーンを掴みにいきます。演算の記号は見つけられませんでした。アリーナをかける姿を見ることができました。スタートダッシュに神経を集中する者、序盤は力を抜いて滑らないようにし後半に加速する者・・・、それぞれがミニコーンを獲得するために工夫していました。



勝負には かけひき が必要です。